

① 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

勉強するといふことがあつたが、それが何だか、おわかりだろうか。勉強するといふばいいことは、知識が増えること以上に、頭が良くなるということなのだ。

「①勉強すると頭が良くなる」ということは意外に見落とされているが、「なぜ勉強をするのか」という問いの一つの端的な答えである。運動すると運動神経が良くなる。運動部に入つて何年かやっていると、元はそんなに動きが鋭くなつた人でも、ある程度、体が動くようになる。それと似ている。勉強すると頭が良くなる。頭が良くなると同時に②心のコントロールもうまくいくようになる、というのが大方の筋道だ。

勉強しすぎて、ものすごくキレやすくなつたという人の率よりも、ぜんぜん勉強しないでブチキレている人の率が圧倒的に高い。勉強すると頭がおかしくなるかのような言説をまき散らす人がいるが、基本的にそういうことはない。

勉強といふものをすることによつて、ある種の自制心という、メンタルコントロール（心の制御）の技術も学ぶことができる。そういう心の技がセットで付いてくるわけである。これは、言ってみると人類の長年の知恵で

ある。

考えてみれば当たり前のことにすぎない。勉強するといふことの基本は、人の言ふことを聴くことである。耳を傾けて我慢して聴くといふ③心の構えが求められる。「おれが、おれが」という自己中心的・独④ゼンの態度を一度捨てる必要がある。「自分に理解できないことは全部価値がない」といふ、自分の好きか嫌いかの世界をすべて決めるという態度では何も学べないのだ。

先人たちの発見したことに對して耳を傾け、しっかりと聴くといふことが、学ぶといふことの基本だ。そうした学ぶ構えができていく人は、ほかの人に對しての意識を持つこともできやすい。人の言葉を聴いている間は、自己中心的な態度をやめていくということだからだ。

本を読むといふことも、同じく聴く構えを要求される。著者について一〇〇パーセント同意するのではないまでも、耳を傾け④虚心坦懐に、つまり心をすつきりさせて、読むわけだ。もちろん反発もあるかもしれないが、まずは相手の言っていることを受け入れてみようといふ、⑤積極的に受動的な構え」を、勉強・読書を通じてつくり上げる。これが学ぶ構えの基本なのだ。

学ぶ構えの基本は、受動的であることに積極的な「積極的受動性」である。自己表現の意欲があるのは構わない。表現するためにいろいろなものを読んで、自分のものにしてそれで表現するのが、筋道なのだ。モーツァルトが音楽の技法・文法を修得して表現したように、である。

知識や技を吸収するときには、人の言っていることに耳を傾けるといふ素直な態度が必要である。素直であるといふことが、学ぶといふ活動そのものの持つている本質なのだ。

もちろん反発しながら、ぶつかり合いながら学ぶといふやり方もないわけではない。そのテキスト（教材）と格闘してこれを絶対に否定してやろうと思つてやる、といふこともないわけではないが、基本的には学ぶという活動は「素直さ」を育てるものである。だから勉強すればするほど意固地になつていくとしたら、これは学び方がどこか狂つているのではないか。⑥へん張な考えになつていくようでは、学んでいく甲斐がないことになつてしまふ。

そういうわけで、勉強をすると素直に吸収する構えが技となる。これがすなわち、頭自体が良くなるといふことだ。だから「頭がいいから勉強ができる」とか、「頭が悪いから勉強ができない」などといふのが、そういう考えはあまり発展性のある考え方ではない。実際、「頭の良さ」はトレーニングによつて明白に向上する。「頭」と勉強といふものはそういう意味で、まず頭を良くするし、ある程度自制心をもつて心をコントロールするといふことに大変役立つ。もちろん、その上に知識そのものの価値といふことが乗つてくる。

文脈をしっかり捉える理解力の養成は、学問共通の効用である。たとえば江戸時代の人がやつていた学問といふものは、現在の最先端の学問とくらべると、ずいぶんと遅れている、もしくは狭かつた。けれども、それを真面目に勉強した。たとえば新井白石のような人の知性が濁つていたかといふと、それなりに頭がすつきりしている。

だからこそ、彼の著書『西洋紀聞』にあるように、イタリヤ人⑦セシ教師・シドツチを訪問した際に、言語の壁を越えたやりとりが可能だつた。たとえば、文化・宗教・母国語が異なつていたとしても、理解力のある者同士の間では密度の高いコミュニケーションが成立するのである。

古今東西なんでもいい。たとえば、古代メソポタミアの『ギルガメッシュ王ものがたり』(ルドミラ・ゼーヤン・文・絵、松野正子訳、岩波書店)は現代人にも理解可能である。粘土板に楔形文字で彫られていた物語がようやく解読でき、読んでみたところ、いまある小説等の主題がほとんど入っていると思われような神話であった。古代人の思考様式であるうが、頭のしつかりしている人の言っていることは全部わかるというのが、ありがたことなのだ。頭のしつかりしていない、何を言っているかわからない人の言葉は、古今東西を問わず⑨「ホソ」が難しく通じにくい。

問一 傍線部⑨のカタカナを漢字に改めたものとして適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

- ①善②全③繕④然 ①①辺②編③遍④偏 ①専②先③宣④撰 ①①翻②本③奔④藩

問二 傍線部①の理由として適当なものを後の①～④から選んで記号で答えよ。

- ①運動し続けていると運動神経が良くなるということは脳神経が訓練されて改善されていることから。
②物事を素直に吸収しようとする思いで行動しているうちにそれが習慣化され吸収力が向上するから。
③全然勉強しないで頭の切れる人も中にはいるが普通は勉強しないと心のキレる人になりがちであるから。
④相手の言うことやテキストに書いてあることを否定してやろうと思っていると論争に強くなるから。

問三 傍線部②の理由として適当なものを後の①～④から選んで記号で答えよ。

- ①勉強をすると知識が増えて学力が上がり多様な視点から世界を捉えることができるから。
②他者の考えを聴くためには自己中心的な考えや態度を抑制しなければならないから。
③勉強ができることは学力偏差値が高いことだが、人間として立派だとは限らないから。
④心のコントロールができる人は常に自分を見つめ他者に対して謙虚であるうとするから。

問四 傍線部③の内容として適当なものを後の①～④から選んで記号で答えよ。

- ①相手との論戦から逃げてかわそうとする姿勢。
②相手に負けまいとして対抗しようという態度。
③用意万端でどこからでも攻めて来いという姿勢。
④意識のある方向に向けて取り組もうとする態度。

問五 傍線部④の意味として適当なものを後の①～④から選んで記号で答えよ。

- ①何事に対しても欲を持たず無の境地で過ごすこと。
②水も空気も澄んで自然の景色がすばらしいこと。
③心に何のわだかまりもなく、さっぱりしていること。
④時の流れに身を任せて運命のままに生きていくこと。

問六 傍線部⑤の表現の手法として適当なものを後の①～④から選んで記号で答えよ。

- ①シラフオルメ ②メタフアー ③アナロジー ④パラボラス

問七 傍線部⑥の効用として適当なものを後の①～④から選んで記号で答えよ。

- ①時代や民族・言語が違っても知性の働きの理解を共有できる。
②他者から学んだものが自分のものになり学術として表現できる。
③メソポタミアの古代楔形文字を誰もが解読できるようにする。
④古代人や江戸時代の人や現代人が共有する悩みを解決できる。

二 ① 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

どうしても今日のうちに白状しておかなくてはならないことがあって、母をコピーに誘った。茶の間で喋ると話が⑦「辛気くさくさ」になる。明るい喫茶店なら、私も事務的に切り出せるし、母も涙をこぼしたり取り乱すことなしに受けとめてくれると思うたからである。次の日になると、私の初めての「エッセイ集が発売になる。明治生まれのわが父の短気⑧「オウ」暴を中心に、子供の頃の暮しのあれこれをまとめたものだが、問題はあとがきであった。

三年前に乳癰を患つたが、母の心臓の具合のよくなかつたことと、私自身思うところあつて別の病名を言い、ごく内輪の者以外には表沙汰にしなかつたこと。あまり長く生きられないような気がして、誰に宛てるともつかぬ香気な遺言状のつもりで、これを書きました、などと述べているのである。

書いた直後にサラリと白状してしまえばよかったのだが、言おうとすると雨が降ってきたり——運動会ではないのだから雨が降ってもかまわないのだが、こう言う話は天気の良い、母の機嫌の良い日に切り出したかった。というのは口実で嫌なことと締切を先にのばすのは、私の一番悪い癖なのである。

手頃な店を見つけ、向い合って坐った。

七十一歳の母はコーヒー好きで、いつものように山盛り三杯の砂糖を入れ、親戚の噂などを上機嫌で話している。うわの空で④相槌を打っているうちに、二人ともコーヒーを飲んでしまった。もう言うしかない。

「②三年前のあれね、実は墮だったのよ」

一呼吸置いて、母はいつもの顔といふもの声で、いふ言つた。「そつたふつと思つてだよ」

また一呼吸置いて、少しいたすらっぱい⑧ク調で、お前がいっ言い出すかと思っていた、とつけ加えた。

⑨私は古いタイヤから空気が洩れるような溜息をついてしまった。

この三年、母とは別に住んでいたこともあり、私は完璧に騙したと思っていた。ことさらに元気に振舞ったせい、か、医学雑誌から健康の秘訣を語る座談会に出て欲しいと言われたこともあった。

母は手術直後の弟の声で判ったという。あの子がああいう声を出すからには、只事ではないな、と思ったとい
うのである。水のお代りを頼みながら、私は、思わず声に出してしまった弟の情を嬉しいと思い、二年間、ただの
ひとことも、病氣について探りを入れずにいてくれた母を、凄くと思った。母の方が④役者が上であった。騙し
たと思っていた私が、実はみごとに騙されていたのである。

本が店頭に並んだ直後から、わが家の電話のベルが頻繁に鳴るようになった。古い友人達が、本で私の病気を知り、水臭いと腹を立てている。見ず知らずの同病の方、××エキス、宗教団体からのもあった。これから伺いますというもあり、私はおれとお詫びに汗をかいた。一番多かったのは、「うちの父と同じ」という声であった。

人一倍情が濃い癖に、不器用で家族にやさしい言葉をかけることができず、なにかというと怒鳴り手を上げる父親が、かなりの数で世間様にもいたのである。自分には寛大、妻にはきびしい身勝手な夫が、威張っている癖に自分一人では頭ひとつ洗えない夫が、ほかにもおいでになったのである。

見ず知らずの方が、電話の向うで、一時間にわたって自分の父親を熱っぽく、時にはうるんだ声で語って下さ

つたこともあった。始めの一、二日は私も感動して伺ったのだが、折悪しく本職のテレビドラマの締切とぶつか
り、^⑨「サレ促するプロデューサー」の声が切迫するようになってからは電話番号を伺い、いずれ、というこ
とで詫びて切らせて戴いた。同様の手紙も沢山頂戴した。

「自分は三十代の父親だが、娘が将来、私のことをし活字にした場合、どういう風に書くのかと思うと」^⑩「索奥

たる思いがする。あなたの父上のようにブン殴った方がいいのだろうか」
 とたずねられ、返答に窮したこともあった。
 お世辞半分であろうが、他人様にはいい父、いい家族とうつるらしく、父上のご存命中、一緒に酒を飲みたかったと書いて下さった方、母上によるしく、ご弟妹にお目にかかりたいという声も随分と涙山あった。

ところが、わが家族は、ことのほかご機嫌が悪いのである。

何様でもあるまいし、家の中のみつともないことを書かれて、きまりが悪くてかなわないというのである。こ
こで退いては商売に差し支えるので、尊敬する先輩方のエッセイを例にひいて⑨コウ弁したのだが、そういう方
の「ご家族もみなかげでは泣いておられる」と反撃され、結局二度と⑩「こういう真似」は致しません、と謝つた。とこ

かく去年の暮から今年のお正月にかけては謝つてばかりいた。「⑤父の詫び状」という題名が悪かったのかも知れない。

*エッセイ集 昭和53年刊『父の詫び状』を指す

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字に改めたものとして適切なものをそれぞれの①～④の中から選んで記号で答えよ。

① 毆 ② 殴 ③ 往 ④ 横
① 句 ② 口 ③ 区 ④ 具
① 裁 ② 裁 ③ 催 ④ 債
① 抗 ② 講 ③ 効 ④ 口

解答番号 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

問一 傍線部①の理由として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 **15**

① 日べろから健康状態があまり良くない母親の機嫌が良いか悪いか明日になったらわからないから。

② 明日発売される私のエッセイ集に父の悪口を書いたので母にうまく取りなして欲しいから。

③母には秘密にしていたことを明日発売される私のエッセイ集に告白しているから。
④気が短くてすぐ手を上げる明治生まれの父親の欠点を書いたことを母には了承して欲しいから。

問三 傍線部⑦～⑪の意味として適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- ⑦①複雑になってしまふ ②気がめいてしまふ ③話題が散漫になってしまふ ④所帯じみてしまふ
①相手の話をちっとも理解していない ②相手の話をまったく聞いていない
③相手の話にいちいち反論している ④相手の話に合わせて受け答えている
⑦①知略や駆け引きがよりすぐれていた ②言葉の言い回しが私よりはるかに上手だった
③母親の言うことには逆らえなかった ④悪知恵を働かせることが上手だった
⑦①うきうきするような思い ②気分が沈むような思い ③怒りに心が震える思い ④夢を見るような思い

問四 傍線部②の具体的な内容として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- ①母が癌だったこと ②弟が癌だったこと
③私が癌だったこと ④父が癌だったこと

問五 傍線部③の説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- ①これだから母には油断も見せられないと警戒心をさらに強くして身辺を守ろうと心に誓った。
②三年間母をほったらかしにしてドラマ制作にかまけていたことを心から申し訳ないと思つた。
③母に見抜かれていたことに気付かず独り相撲を取っていた緊張感から解放されて気がぬけた。
④自身の病名をあえて聞こうとしない気丈さに昔の女性には心が強いと思ひ改めて母を尊敬した。

問六 傍線部④の具体的な内容として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- ①エッセーの題名で父の名誉を傷つけたこと。
②家庭生活を暴露したエッセーを書くようなこと。
③家族を騙すようなことをしたこと。
④弟に母の世話をさせて母とは別居していたこと。

問七 傍線部⑤のように思う理由として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- ①エッセーの題名から、父親が娘に手をついて謝るイメージがわいて読者が嫌悪感を抱いたから。
②家庭内の見苦しいことを洗いざらい書いたので家族の皆から総スカンをくらったから。
③どこの家にも愛情は深いのが怒鳴って暴力をふるう父親がいるものだと思つて安心したから。
④謝つてばかりいる自分が「詫び状」という題名から呪われたように感じたから。

問八 傍線部⑥の文法的説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- A その場所に行つては「みたが二〇年前とはすっかり変わつていた。
B 敵^たに知られては「まずいことになるぞ
C 「急いでは事をし損じる」というから慌てないでじっくり取り組もう。
D 親鳥が飛んでいつては「虫を捕つて帰つてきて雛を育てる。
E そんなに心配しては「体に悪いよ。

- ①否定的な結果を予測しながらもある動作・作用を提示する ②動作・作用の及ぶ範囲を示す
③ある条件の下では常に同じ事態が成立することを示す ④動作や作用の反復を表す
⑤禁止や迷惑などの仮定の条件を示す ⑥順接や添加の働きをする
⑦既定の条件を示す

問九 次のA～Eの言葉の使い方として適当なものをそれぞれ後の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- A さればこそ ①人は多くの場合、他人には決して言えないさればこその事情を抱えている。
②皆が恐れて前に出ない。さればこそ自分が出撃して手柄を立てる。

③通りに面した小学校の夜の校庭はさればこその月明かりに白く輝いて見えた。
④住民票を区役所に取りに行ったらさればこその応対にかっかりした。

B 月並み
①世界的に優れたゴルフプレーヤーの動揺しない心は月並みとしか言いようがない。
②苦しい練習をしてオリンピックで金メダルを獲得したのはさすがに月並みだった。
③結婚式に出席していた代議士は月並みな挨拶をして途中でささと帰って行った。
④いくら南国九州でも気温が夏に三十九度にまで上がるのはあまりにも月並みだ。

C 気の置けない
①イスマエルとハマスは気の置けない仲だから互いに報復して戦いは終わらない。
②道ばたに気の置けない老人が倒れていたのを助けた高校生は表彰された。
③あいつは昔から気の置けないやつだから家庭内のいざこざまで相談してきた。
④警察官という気の置けない職業だけど市民を守るといふ使命感に燃えている。
D ないがしろ
①先祖や親をないがしろにしていると罰が当たってろくなことにはならないよ。
②牧野富太郎先生が植物をないがしろにしたおかげで植物分類学が発展した。
③エジソンは子供の頃はないがしろと言われたけれどいくつもの偉大な発明をした。
④米大統領選挙はないがしろだが新大統領は世界平和に貢献して欲しい。
E どこ吹く風
①夏が過ぎて秋が来て冬を経て春になる、というように季節は常にどこ吹く風だ。
②夏の暑さがこたえたのか、秋になってから体の調子がどこ吹く風だ。
③ナチスのユダヤ人差別だけでなく、現代も世界中で差別や虐殺がどこ吹く風だ。
④夜も眠れないほどの親の心配を、どこ吹く風とあの男は遊びほうけている。

【五】 次のA～Fの■に漢字を入れて四字熟語として完成させよ。漢字は後の①～⑨から選んで記号で答えよ。

■ 東三文 大層安い値段のこと。 B 孟母 ■ 遷 教育環境の大切さを説く教え。
■ 面六臂 大活躍する意。 D ■ 根清浄 迷いを生む根源を断つて穢れをなくすこと。
■ 面楚歌 周りがすべて敵に囲まれること。 F ■ 転八起 何度失敗しても奮い立ってがんばること。
① 一 ② 三 ③ 四 ④ 六 ⑤ 七 ⑥ 八 ⑦ 九 ⑧ 百 ⑨ 千

【六】 次のA～Fの意味になることわざを後の①～⑨から選んで記号で答えよ。

A 手こたえがなく張り合いがないさま。 B 働きかけた者が逆に相手方に引き入れられること。
C 余計なことをして思わぬ禍をこらむること。 D 教えてもらおうより実地に練習する方が効果的であること。
E 二つの職を兼ねること。 F 愛していると、欠点までも美点に見えること。
① ひょうたんから駒が出る ② 暖簾に腕押し ③ 水清ければ魚棲まず ④ やぶ蛇
⑤ 一足の草鞋をはく ⑥ 情けは人のためならず ⑦ あばたもえくぼ
⑧ ミイラ取りがミイラになる ⑨ 習うより慣れろ

【七】 次のA～Fに該当する作家を後の①～⑨から選んで番号で答えよ。

A 昭和四十三年日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した作家。
B 日本で初めて言文一致体（口語文体）で小説『浮雲』を書いた作家。
C 詩人になれず虎となった青年李徴の悲劇を描いた『山月記』の作者。
D 『死者の奢り』『銅育』などの作者でわが国で二番目のノーベル文学賞を受賞した作家。
E 故郷岩手で農業指導をしながら創作活動をし、『雨ニモマケズ』の詩で有名な詩人で童話作家。
F 『大つごもり』『たけくらべ』等の作者で明治時代の女流文学の華といわれる薄幸の作家。
① 岡本かの子 ② 泉鏡花 ③ 与謝野晶子 ④ 樋口一葉 ⑤ 大江健三郎
⑥ 二葉亭四迷 ⑦ 宮沢賢治 ⑧ 川端康成 ⑨ 中島敦

解答番号 A [46] B [47] C [48] D [49] E [50] F [51]